

常盤台使い

Letter from the Residential Tokiwadai

第174号 2026年8月15日

サマーフェスタ in マルシェ 2026 ComeBack !!

コロナ禍以降、7年ぶりにご家族様も一緒にご参加いただける
サマーフェスタを開催することができました。



まだまだフェスタ前半！後半は来月号に続きます！！乞うご期待

初港入！！それぞれの本番まで（その一）



フェスター一番人気のじゃがいもは春に植え、夏の暑い日に収穫されます



実行委員会で綿密な打合せ



- ・冷しおでんの煮卵
- ・フライドポテト（ポテトは希少種“インカのひとみ”）
- ・フォーの仕込み



新たなデザインのサマーフェスタTシャツも到着

来月号も港入取材をお送りします。

Only One

誰にでも、大切にしている“物”や“思い出”“人” etc があると思います。このコーナーではそんな人の“Only One”をご紹介します！

4番街 阿南洋子さまの Only One

4番街にお住いの阿南洋子様の only one。息子様が綴ってくださいました。

洋子の眼には、いつも帰宅後は正座して読書をしている父の後姿が写っていた。学者肌で多趣味の勉強家、沢山のお弟子さん達が通う茶道の先生でもあった父親から、ある日小さな英和辞典を買ってもらった。

辛い戦争、終戦期に思春期を過ごした彼女は、この英和辞典を宝物のように持って単語を丸暗記する日々。辞書を片手に単語をつぶやいて日々通学、ある単語を言えば、辞書をパラパラめくることなく一瞬でそのページを開けられるまでになっていた。

短期大学英文科を卒業、就職したが、サラリーマンの夫と出会い結婚、専業主婦に。これまでに養った努力家の片鱗は子育てに活かされ、腕白な男の子に必死に教育を授けた。決して「教育ママ」ではなく、勉強することの楽しさを自覚させるものだった。その子供も大学を卒業し医師に。

同業の妻を迎え孫もひ孫もできた。幸せな人生だったかと問われれば答えは難しだろう。でも、時々訪問する家族に見せる笑顔は、必死に頑張った彼女の生きざまの証なのだ。



編集後記

施設の入り口本棚には、その他の写真もアルバムで保管していますので、ぜひご覧ください。暑い日が続きます。熱中症には気を付けましょう。こまめな水分補給も忘れずに！